

■ 2歳児さんのパパの手記より…

《娘への手紙～ひよこぐみでの3年間を振り返って～》

この文章を、これからひよこぐみに入るお友達の親御さんや将来のAちゃんが読むかもしれないと思うと、パパは柄にもなくカッコイイことを書いてしまいそうだ。パパは太っちょで不健康だから、Aちゃんがこれを読む頃にはもういなくなっているかもしれない。だから情けないことも書こうと思う。

Aちゃんが生まれた朝はとても大変だった。ママのお腹がすごく痛くなって、産院につくまでに車の中で赤ちゃんが生まれちゃうと思った。着いたらすぐにAちゃんが生まれて、パパとお姉ちゃんも新生児室に行った。嬉しくなったお姉ちゃんが窓ガラスを叩いてしまった時、他の赤ちゃんが一斉に泣き出したのに、一番手前にいるAちゃんがスヤスヤ寝ていて「もしかしたら…」と思った。ママもAちゃんと一緒に入院しているなかで「もしかしたら」と思うことがあったみたい。新生児聴覚スクリーニングがリファア(要再検)になって、先生から「耳にお水が詰まっているせいかも」と言われても不安だった。

1か月後の再検査の日までは、毎日ドキドキしていた。「フライパンを落とした音で驚いていたから聞こえている」とか、「お姉ちゃんの泣き声のなかでもスヤスヤ寝ていたから聞こえていないかも」とか言って、毎日ママと話したよ。お姉ちゃんもAちゃんがいる新しい環境での生活に戸惑っていた。ママもクタクタに疲れていた。パパは、Aちゃんもお姉ちゃんもママも守らなきゃと、毎日考えていた。

パパは「きつと、Aちゃんは聞こえているよ。」って、みんなにずっと言っていた。Aちゃんは寝ている時にはどんなに大きな音がしてもスヤスヤ寝ていて、オムツやミルクなど自分が用事がある時だけ大きな声で泣いた。パパは「なんて育てやすい子だ。大物だな。」と、言っていた。自分の不安を押し隠して。今思えば、近くにパパやママがいることに気がついて、早く知らせたい・して欲しいことがあるって時に泣いていたのだろうに…ごめんね。

1か月健診の検査もリファアとなり大学病院に紹介になった。初めて受診した時「難聴だけど全く聞こえてないわけではない」って言われた。でも、パパはママが心配だったから「4か月後の精密検査では軽度難聴って言われるよ」とか「パパは医者だからいざというときは大丈夫」とか言ってしまったよ…。

でも、生後半年近くに行われた精密検査で中等度難聴と診断されてパパは慌てたよ。すごく慌てたよ。パパは、学生時代に耳鼻科の先生の講義で「難聴児に大切なのは療育・教育。一日でも早く療育・教育。」と習ったことを思い出して慌てたよ。ママはAちゃんがお腹の中にいる時に私が何かしたんじゃないかって、いっぱい泣いたよ。そんな頃に大塚ろう学校のことを調べてみたんだ。

乳幼児教育相談のひよこぐみに入ってから、Aちゃんはひよこぐみに慣れるまで、家に帰ると疲れて夕ご飯まで寝ていたね。お姉ちゃんもAちゃんのひよこぐみの日には、パパの病院の保育園に行って頑張ったんだよ。

みんなが忙しく頑張っていたAちゃんが1歳4か月くらいの頃、難聴の原因が分かった。遺伝子のこと、難しくよく分からないと思うけど、何万人っていうお父さん・お母さんがいるなかで、Aちゃんがパパとママのところに来たということはすごい奇跡ってこと。すごい美人に育っても、すごく賢く育っても、パパとママの子で間違いないってこと。

最近、Aちゃんは絵画教室の他にヴァイオリン、バレエも習い始めた。音楽を聴いたり、身体を動かすことが本当に大好きなんだろう。いつも楽しそう。音程もパパより合ってる。表現力はフィギュア選手の様。とても可愛い。Aちゃんは集中力がすごいので、すぐに上手くなるよ。パパのように手足が短いから止めなさいとは言わないよ。

Aちゃんの前庭水管拡大症という病気は、頭をぶつけるときこえが悪くなることもある。でも、パパもママもAちゃんの手がかりたいこと、ジャングルジムも滑り台もブランコもボール遊びも縄跳びも、「どんどんやっちゃえ!がんばっちゃえ!」って言うちゃう。いつか大きくなった時にAちゃんの思い出になるから。お姉ちゃんとのケンカもどんどんしなさい。今のところ、お姉ちゃんが手加減してくれていますよ。

パパが仕事から帰ると笑顔で迎えてくれて、脚にハグしながら「パパ大好き」というAちゃんが好き。

パパがチューしようとする、怒るAちゃんが好き。

抱っこしているとき重くないか訊いてくるから、「重い」と答えるパパに、「重くないよ!」と言うAちゃんが好き。

大好きなものを食べる時には、口に入れる前に美味しい顔になっちゃうAちゃんが好き。

眠くなると大好きなものを教えてくれるAちゃん、いつもそこにパパを入れてくれてありがとう。

とても芯の強いAちゃん、将来はしなやかな人柄で多くの人と親しめるといいね。

